

たんぽぽ

2019.1

TANPOPO

MEITOKU GIJUKU
NEWS LETTER



高知新聞/10月26日付朝刊



世界の金融センター英国ロンドンで活躍する
森谷圭介先輩(2004年卒/26期生)が、
後輩たちに熱いエール(8・9面)
チャールズ皇太子も和太鼓演奏に大感激!!

高知新聞/
12月8日付朝刊



プロ野球ドラフト会議(10月25日)で、
市川悠太投手(6年A組)をヤクルトが3位指名

- 5年春夏、6年春の3期連続 甲子園で活躍
- 2017年神宮大会ではエースとして36年ぶり優勝に貢献



中学

卓球 白山亜美さん(2年1組)が全国優勝

全日本選手権カデット部(11月2日~4日/仙台市)

女子14歳以下シングルス

同ダブルスで上沢姉妹が準優勝

高知新聞/11月6日付朝刊

ラリンさん(2年2組/タイ出身)W受賞

2020年に高知で開催される

- 「全国高校総文祭」ポスターに
ラリンさんの作品が入選
- 中学生弁論大会スピーチ部門
でも優勝(5面)。

(2面)

第45回体育祭

(10/11面)

たんぽぽギャラリー

(12/13面)

第26回わたしのイチオシ



中3生 修学旅行

中学3年生が11月20日から2泊3日の日程で、京都・大阪方面へ修学旅行に出かけ、楽しい思い出をつくってきました。

嵐山・嵯峨野・二条城・金閣寺・清水寺・三十三間堂など京都の名所を次々に訪問。京友禅体験工房ではトートバッグ作りに励みました。

最終日の午後はユニバーサルジャパン (USJ) で過ごし、アトラクションなどで楽しみました。



高校・中学1・2年生が 秋季遠足

秋季遠足が11月22日、高校全学年と中学1・2年を対象に催されました。

高校1年は高知県中土佐町「黒潮工房」でカツオたたきづくり体験、2年は香川県丸亀市の遊園地「ニューレオマワールド」、3年は高知市内の帯屋町商店街などを散策、中学1・2年は高知県香南市「県立のいち動物公園」「龍河洞」を訪問し、クラスメイトらとそれぞれ楽しいひと時を過ごしました。



防災訓練

南海トラフを震源とするマグニチュード8クラスの巨大地震を想定した今年度の防災訓練が11月7日、本校キャンパスで実施されました。

須崎市地震防災課、須崎消防署などの関係者が視察する中、教室からグラウンドまでの避難ルートの確認や負傷者の救援・救護処置、消火器の操作方法、煙の中から脱出する「煙体験」訓練などに、生徒たちは真剣な表情で取り組みました。

訓練後、生徒を代表して6年B組、清水翔夢(とむ)くんが「来るべき災害への心構えや危機管理能力を向上させることが大切だと改めて感じました。日頃から災害への準備を怠らないよう精進します」と関係者にお礼のあいさつをしました。

南海トラフ巨大地震は、特定できる7世紀以降、100～200年周期で発生しており現在、最後の大地震から約70年が経過しています。

また9月26日には竜キャンパスで「防災教室」が開催され、防災委員の生徒が日本語・英語・中国語・韓国語・ベトナム語で作成した「震災対策カード」を配布し、避難ルートの確認や心構え、津波対策の項目を確認しました。

このあと、日赤高知県支部事業推進課長の吉岡邦展さんが講演。「揺れを感じたら必ず津波に襲われると判断して逃げる。その避難がムダに終わったとしても、決して失敗ではない」「自分の命は自分で守ることが大切」と生徒たちに訴えました。



トピックス 明徳

MEITOKU
GIJUKU

その1

第45回

体育祭

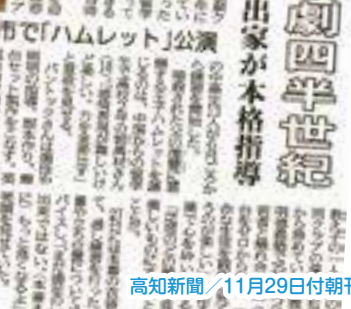
開催!



第45回 体育祭が10月6日、本校グラウンドで挙行されました。降雨の天気予報は大外れで、午後からは青空にも恵まれ、全日程を終えました。

競技後には各クラブ出店「模擬店」が食堂で開かれ、日没直後から始まった「打ち上げ花火大会」でフィナーレ。キャンパスは終日、生徒たちや保護者らの歓声がこだましました。

第52回 英語劇公演



第52回 英語劇「Hamlet (ハムレット)」(国際演劇クラブ主催) が11月30日、高知市春野・ピアステージで公演され、400人近い観衆を魅了しました。

シェイクスピア作品の悲劇で、決闘・毒殺・主人公の死…衝撃的な物語を6月以降熱心に練習に励んできた生徒13人の熱演に、会場から惜しみなない拍手が贈られました。

脚本・演出はいつも通り、ギャビン・パントック先生。四半世紀を超えた同公演の歴史や苦労をパントック先生らの回想を交えた記事になり、会場にはこの紙面で公演を知った一般の市民の姿も多く見られました。

高知新聞/11月29日付朝刊

いのちのレッスン 特別公演



なかと
鈴木中人さん

「いのちをバトンタッチする会」代表の鈴木中人さんが11月27日來校し、一部の留学生を除く全校生を対象に講演しました。

鈴木さんは1992年に長女景子ちゃんが小児がんを発病したことをきっかけに、小児がんの支援活動を開始。また、命の大切さや家族の絆、『いのちのバトンタッチ』をテーマとする「いのちの授業」や研修を全国展開しています。

この日の講演では、闘病に励む景子ちゃんが発した言葉や夫婦の苦悩などを振り返り「自分や家族、仲間の命を大切に…皆の命は両親、祖父母らが延々とつないでくれた貴重なものであることを決して忘れないで」と訴えました。

土佐市立蓮池小 児童が来校



土佐市立蓮池小学校の児童が11月23日、来校。竜キャンパスを見学後、留学生たちとバレーゲームを楽しんだりして国際交流体験をしました。

午後には本校へ移動し、和太鼓ワークショップを楽しみました。



国税庁などが主催する今年度の「税についての作文」コンクールで、2年1組、加藤菜摘さん＝写真＝が「須崎税務署長賞」を受賞し、11月11日に表彰されました。

加藤さんの作品タイトルは「税金を支える私たちの生活」。加藤さんは税金を「国民が健康で文化的な生活を送るために必要不可欠なもの」とし、「私たち国民一人ひとりが納税者としての自覚を持ち、税に関心を持つことが、より良い社会をつくるために必要」と訴えました。

また、加藤さんは環境保全の意識高揚のために、ゴミの量に応じて「ゴミ税」を新たに徴収することや酒税とたばこ税を「もう少し高くする」ことを提案し、注目されました。

「税についての作文」で 須崎税務署長賞

韓国総領事が 来校



駐広島大韓民国総領事、辛 亨根さん＝写真＝が10月31日、竜キャンパスを訪問し、韓国留学生45人と意見交換しました。

ここ数年、韓国留学生が急増していることから現状視察を目的に来校。和太鼓部の力強い歓迎の演奏で出迎え、韓国留学生に対して「皆さんがイキイキとして留学生活を送っている姿を見て、韓日親善が揺るがないモノだと確信しました。これから有意義な学校生活を送って下さい」と励ましてくれました。

中学英語弁論大会でラリンさん1位に

第71回高知県中学英語弁論大会（県教育文化祭運営協議会など主催）が11月3日、県立大学・永国寺キャンパスで開かれ、タイ出身の2年2組、コモルケットラック ラリンさんが、[2年スピーチ部門]で優勝しました。

県内中学生54人が参加し、教材などに基づく「暗唱」、自分で創作した英文を話す「スピーチ」部門（3分以内）に分かれ、発音の正確さや内容で競い合いました。ラリンさんは「芸術の創造」をテーマに熱弁し、『自分の考えや気持ちを正確な英文と発音で堂々と発表した』と高い評価を得ました。

またラリンさんは、2020年夏に高知県で開催される第44回全国高等学校総合文化祭の「ポスター原画」に応募し、24作品中、上位から3番目の「入選」となり10月10日に発表されました。

同文化祭実行委が公募していたもので、ラリンさんの作品は、鯨・土佐犬・カツオ・高知城・坂本竜馬像のイラストを背景に可愛いキャラクターたちが鳴子踊りを演じている光景を表現しており「丁寧に描かれており、見ていて楽しい」と絶賛されました。



ラリンさん（前列左端）

毎日新聞／11月4日付朝刊

海外姉妹校から来校生、続々



海外の姉妹校から短期留学生が続々、来校。明德生と生活をともにしながら幅広い分野で交流を深めました。

来校したのは、中国・南昌外国語学校（9月9日～16日）、オーストラリア・イマニエル・アングリアン・カレッジ（10月1日～19日）、同・PLC（10月17日～12月12日）、タイ・ワチラウッド・カレッジ（11月1日～6日）4校の生徒約計100人。

南昌外国語学校の生徒たちは滞在中、日本語授業や茶道・華道の指導を受け、巻きずしづくりなどを通じて日本文化を体験。ワチラウッド・カレッジの生徒たちは全員がバンドメンバーで、マーチングバンド部とジョイント演奏するなど音楽交流を目的に来校。11月5日の夕礼後、体育館で合同演奏し、迫力ある演奏で会場を魅了しました。同日午後には土佐市立高岡中学校を訪問し、タイの民謡などを演奏しました。

オーストラリアの姉妹校2校の生徒たちは、日本語の授業のほか和太鼓・空手・相撲などのクラブに体験入りし、茶道・華道・書道・着物着付などにも挑戦し、日本文化体験を満喫しました。

留学生が詩吟を 披露



鵬翔流吟友会主催「風雅を楽しむ秋の集い」が11月3日、香南市赤岡町の芝居小屋「弁天座」で開催され、日本クラブ所属の留学生が吟詠を披露し、盛んな拍手を受けました。



高校生世界津波 サミットに 明德生3人が参加



「世界津波の日2018高校生サミットin和歌山」が10月31日、11月1日の2日間の日程で、和歌山ビッグホエール（和歌山市）を会場に、48ヶ国の約400人の高校生が参加して開催されました。

明德からは水野みやびさん（4年英語）、川村彩菜さん（同）、ナウオン ブラウパンさん（5年特進I）が高知県代表の他4校の高校生と一緒に参加しました。

サミットでは「過去の災害からの学び」「学校や住まいの防災」「避難行動」など12の分科会ごとに、参加者はそれぞれの国の現状と課題について英語で意見発表し、討議しました。明徳の3人は特に「防災活動」や避難行動のあり方などについて、チリ・デンマーク・モルジブ・ベトナムの生徒たちと意見交換し、世界レベルの大地震対策の見聞を広めて来ました。

中学サッカー大石くん、 U-15日本代表として フランス遠征

高知新聞／11月23日付朝刊



大石稜也くん(3年1組)がサッカーU-15日本代表DFとして10月27日から11月3日までフランスへ遠征し、オーストリア・フランス・英国の世界強豪チームとの国際試合を体験してきました。

大石君はオーストリア・フランス戦に出場。対戦チームのスピードとパワーに圧倒されたそうで「自分の守備力不足を痛感した」。でも「トラップやパスの質と、ボールを受ける前に周りを見て選択肢を持ち、最善の判断力が必要との課題を見つけたことは大きな収穫」と話していました。

帰国後のインタビューが11月23日付の高知新聞に大きく掲載されました。

ゴルフ部 中学男子・高校女子 四国No.1に!!

高校2年生以下を対象とした「第27回四国ジュニア選手権秋季大会」が10月28日、高松カントリーゴルフ倶楽部(香川県)で開催され、松岡翔真くん(3年1組)、中田寧々さん(4年C組)が優勝、福住将くん(4年C組)が準優勝しました。

また、11月8・9日に土佐CCで開催された「第40回西日本アマチュアゴルフ選手権大会」に出場した岡田晃平くん(5年C組)は準優勝しました。

第48回 ライオンズクラブ 表彰



スポーツで優秀な成績を収めた中学生をたたえる「第48回ライオンズスポーツ賞」表彰式が12月4日、三翠園(高知市)であり、12団体と個人39人に表彰状とトロフィーが送られました。

明德義塾では野球部・男子空手道部・男子卓球部・女子卓球部が「団体」、卓球・安江光博くん／斉藤秀太くん／青井さくらさん／白山亜美さん／手塚峻馬くんが「個人」表彰を受けました。



マーチングバンド部が金賞受賞

第46回マーチングバンド・カラーガード全国大会四国予選が10月21日、徳島県の鳴門大塚スポーツパーク(アミノバリューホール)を会場に開催され、明德義塾は金賞を受賞しました。

明德義塾は「80's」をテーマにボンジョヴィ、クイーン、マイケルジャクソンなどの楽曲に乗って80年代ポップスとロックを表現し、高い評価を得ました。全国大会出場は別の金賞受賞校に決まりましたが、来年へ向けて大きな手応えを感じさせる大会となりました。

また第30回マーチングバンド・パトントワーリングフェスティバルにも参加。高知市東部総合運動場くろしおアリーナを会場に11月11日に開催されたフェスティバルでは、アレンジしたボヘミアン・ラプソディーなどの楽曲にマイケルジャクソンのダンスパフォーマンスを取り入れたコミカルなショーを披露し、会場の観覧者から盛んな拍手を受けました。



数学インストラクターが 数学講座



日本数学会認定協会が認定する数学インストラクターによる「未来を創る数学講座」が10月13日、学習部の生徒を対象に竜キャンパスで開講されました。

東京・大阪・広島からインストラクター8人が参加。対数関数(高2)・2次関数(高1)、一次関数(中2)のテーマごとに分かれて、講座を受けました。

教科書通りだけではなく、さまざまな観点からの指導に、生徒たちは「数学の世界は面白い」と興味津々の様子で、最後まで真剣な表情で受講していました。

10月入学式

留学生を主体とした10月入学式が10月12日に挙行政され、63人が新しく仲間入りしました。

新入生を代表して、中国出身の潘可欣さん=写真=が「先生方や先輩の皆さんの指導を宜しくお願いします。今日から明德生として誇りを持って、自立した生活が送れるように努力します」とあいさつし、激励の拍手に包まれました。



家族愛 作文コンクールで 3人が入選

第10回家族愛の作文コンクール(高知県モラロジー協議会主催)入選者が決まり、8月26日に表彰されました。今回のテーマは「南海トラフ地震対策と家族愛」。近い将来に発生が確実視される大地震への備えを巡り、家族間の愛情を感じたエピソードを原稿用紙に綴りました。

須崎モラロジー事務所管内の須崎市ほか3町から853点応募があり、次の3人が入賞しました。

- ・1年3組 岡孟くん「一人一人が家族の宝物」
- ・同 中平大地くん「まず生きる事だけ考えよう」
- ・2年2組 前田夢叶さん「家族の愛に答えるためにも」

常に挑戦し続けよ!

Be yourself and keep on challenging! (自分をしっかり持ち挑戦し続けよ!)

今でも自分に言い聞かせられるのは、あの3年間の厳しい明徳生活があったことです。
「ゴールデンウィークまではお客さんやけど、その後はちゃうぞ!」と入寮日に先輩達から伝えられ、とにかく緊張と不安の寮生活がスタートしたのを今でも鮮明に覚えています。
地元北海道、そして親元を15才で離れ、それまでの生活環境と全く違う場所で始まった高校生活。辛くなかったと言えば、それは嘘になるでしょう。

寮の仲間は「一生の宝」

目が半開きのまま始まる点呼、朝礼、ラジオ体操、国家・校歌斉唱にグラウンドでの行進。同じ寮で毎日共に生活している同じ先生が、教室の教壇で授業。和太鼓部(当時の芸能部)では皆の音がきれいに揃うまで終わらない練習、足の踵を腕につけて頑張った撥の素振り、仲間と一緒にした丸坊主。「見せるのでなく、視せるのでなく、魅せるんだ!」と血豆を潰しながら叩いた和太鼓。夕礼の後はその凄く睡魔と空腹に襲われながらの自習時間…。しかし、そこで明徳生活を一緒に乗り切った仲間は「一生の宝」です。卒業生の皆さんは迷いなく同感してくれるでしょう。在校生は卒業間近から気持ち始めるでしょう。

地球のどこかで

高校二年次にカナダ中部にあるウィベグ市に10カ月間短期留学をしました。先に頭の中で整理したつもりでも、思うように上手く出てこない英語。とにかく悔しく、やるせなかった自分がいました。そこで毎朝誰よりも早く登校し、対で現地の先生に英会話の特訓をしてもらいました。努力が実ったのか、カナダで出来た親友のジェラードとは、卒業して十五年経った今でも、二年に一度は地球のどこかで会っています。



高校三年次に 英国留学を決行

ある日、父が私にこう言いました。「日本を知るには日本を出なきゃ、分らないよ!」と。カナダでの留学経験もあり、高校三年次に英国留学を決意しました。英国公立レディング大学傘下のテマ(大学進学準備コース)に進学、後に公立ロンドン大学(東洋アフリカ研究院)を2010年度に卒業。数々の挫折を繰り返した上で、英国での学士号を取得しました。

「少年老い易く学成り難し、一寸の光陰軽んずべからず」を肌で感じたと同時に、この留学期間は「学び方」から徹底的に鍛えられたような気がします。これも明徳生活があつての成功です。

英国チャールズ皇太子にも 和太鼓を披露

現在はロンドンでインプリメンテーション・スペシャリストとして、ブルームバーグ欧州本社に勤務しています。世界の金融情報、ニュースを発信している会社です。留学中、ロンドンで和太鼓チームに所属し、ヨーロッパを始め、中東・アジアと数多くの国を公演で回りました。最近ではイギリス王位法廷推定相続人でウエールス公のチャールズ皇太子の前で、和太鼓を演奏する機会もありました。他にも、日本文化を海外で推進するために、中学校・高校・公共の場での和太鼓レッスンなどにも力を入れています。これも厳しい和太鼓部があつたからこそ。



厳しい生活を 乗り越えろ

今も同級生と会つと、明徳時代の思い出話で話がつきません。中には「二日でもいいから戻ってみたいな」という人もいます。明徳生活にも沢山の波があるんですよ。決して楽しいことだけではなく、辛いこともあるでしょう。しかし、この厳しい生活を乗り越えれば、将来あなたたちの役に立つ日が必ずあります。卒業生を代表して自信を持って保証します。

森谷 圭介さん

第26期(2004年3月)卒

- ・北海道千歳市出身 1985(昭和60)年8月1日生まれ 33歳
- ・2001年 明徳義塾高等学校英語コース入学(入寮)
- ・高校2年次 10ヶ月間カナダのダコタカレッジイトに短期留学
- ・高校3年次 種智院寮の寮長
- ・高校3年次 自治会の副会長
- ・明徳芸能部で和太鼓部門の第1期生として、元横綱朝青龍関の横綱昇進会での演奏、ジョイントコンサート、明徳義塾30周年記念で和太鼓を演奏
- ・2010年 公立ロンドン大学(東洋アフリカ研究院) 学士課程卒業
- ・現職: Implementation Specialist (Project Manager) ブルームバーグ欧州本社勤務
- ・和太鼓インストラクター
- ・2018年 英国永住権取得



Live and enjoy every moment of your Meitoku Life and it will get paid off in your future!

美術部

ART CLUB

たんぽぽギャラリー

Tanpopo Gallery

平成30年度 高知県高等学校総合文化祭「奨励賞」



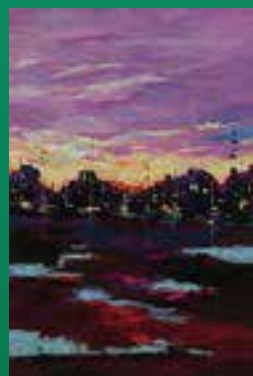
「帰郷」 前田知香 (4年中国語)



「うみねこ」



「開拓」 阪口実来 (4年中国語)



「Unrequited love」 項天池 (5年特進II)



「猫をかぶる」※佳作
「あじさい」 市原百 (4年特進)



山崎希空 (4年特進)

「I like...～好きなことをのぼそう～」
のためのポスター」



「Wanton and live」 齋正欣 (4年日本語4組)



「御青」



「ゴルフの星」



「深呼吸」 王思捷 (5年特進I)



「どきどき」 ユンスヨン (4年中国語)

たんぽぽギャラリー

Tanpopo Gallery

文化部

VISUAL ART CLUB

「平成30年度 高知県高等学校総合文化祭」(県教委・県高校文化連盟主催)が11月4日～18日、高知市文化プラザかるぽーとを主会場に開催され、県内46校の文化系クラブの生徒たちが、美術・写真・漫画・伝統文化など17部門で腕を競い合いました。また、明德義塾は「第72回高知県展」(10月3日～21日/県立美術館など)にも積極的に出品し、特に留学生らの斬新な発想の作品に高い評価を得ました。(敬称略)

平成30年度 高知県高等学校総合文化祭「奨励賞」



「瞬間」



「緊張」 市原百 (4年特進)



「パッと咲いた恋」
ヒョンウジョン
(4年英語)



「Happyファミリー」



「師資相承」



「サイズ違い」



「勇猛果敢」
温碧瑤 (5年特進I)

マンガ部

MANGA CLUB



「トモダチとハロウィン」
ハーゴックマイ (4年日本語I)



「ようこそ、世界ライブラリー」

シンイン (5年特進II)



「52Hzクジラのちっぽけな夢」
チャンコックアンニエン (4年日本語I)



「太陽と月」
ナパサナンロブコブ
(5年特進II)



「龍と火」
サイウレイ
蔡宇霊 (5年特進II)



「スノーグローブ」
パッサチョンシャオハ (5年特進II)



「無題」 ナウオンブラウバン (5年特進I)



「少女夢」 キンサンコウ
金燦昊 (5年特進II)



「ミンルアンです。」
トアンチャンミンルアン (6年D組)



「チュークリーム」
シスワンマッチマ (6年特進II)



鹿の王

(著:上橋菜穂子/角川書店)

4年C組／藤本 遥さん(兵庫県出身)

ヴァンという男と、医師ホッサルの2人の主人公によって作られた医学ファンタジーです。

東乎瑠という巨大帝国が侵略を繰り返す世界で、突如発生した太古のウィルス黒狼熱。唯一その病にかからなかったヴァンは、拾った幼子ユナを連れて旅に出ます。

その病の原因を探するため、医師ホッサルがやってきた。大昔に一つの国を滅ぼした伝説の病、種族によって人が死んだり、死ななかつたりする謎の病に天才が挑む。日本医療小説大賞受賞作品です。ファンタジーの枠におさまらない膨大なテーマがたくさん出てきて、主人公2人の心境に、最後まで目が離せません。物語の不思議な展開に引き込まれること間違いなしです。



あなたの人生、片づけます

(著:垣谷美雨/双葉文庫)

6年中国語／秋山 有紀さん(高知県出身)

この本の登場人物は、みんな「心」と「部屋」に問題を抱えている。片付けカウンセラー、大庭十萬里のもとに持ち込まれる「片づけ」依頼…汚いままのOL部屋、妻に先立たれた家事能力ゼロの老人、大きな屋敷にモノを詰め込む老婦人、十萬里自らの視点の話の4編で構成されています。

様々な人の心に十萬里が寄り添い、心と部屋の片づけの方法を教えていきます。そして、部屋の片づけを通して「人生の片づけ」をしていくのです。

これを読めば、あなたも絶対部屋を片付けたくなる究極の片付け小説!!

部屋の片づけが苦手な人、そして年末の大掃除に向けて、まずはこの本を手にとってみませんか。



ゴールデンボーイ

(著:スティーヴン・キング/新潮文庫)

6年特進Ⅱ／張 政さん(中国出身)

著者は米国のモダンホラー小説家。デビュー作「キャリー」(1974年)や「スタンド・バイ・ミー」は映画化されて大ヒットしたので、ご存じの人も多いと思います。

この本は、1982年に出版された「恐怖の四季」に収められた中編小説集です。この名の通り、四季ごとの四部作で、私はこの中の春物語「刑務所のリタ・ハイワース」に夢中になりました。

主人公アンディは妻とその不倫相手を射殺したとして投獄され、刑務所で暗く長い獄中生活を送ります。終身刑は、有能な銀行家として、周りから羨望されてきた幸せな生活を打ち砕きました。真相は冤罪なのに…。

しかし、レッドという獄中仲間と魂の交流が始まり、胸の内に「希望」の灯をお互いがともし続けるのです。

高校3年になった春に友達に薦められて読みました。そしてこの本は、私に大学受験に立ち向かう勇気を与えてくれました。受験に対する恐怖心が不思議となくなり、代わりに「入れる」という自信が湧いてきました。

確かにそうです。まだ、始まっていないのに、最初から可能性を否定することはありません。自分がこれまで払って来た努力は、ムダであったはずはないのですから。

人間は複雑、でも単純な生き物だと思います。いろんな可能性を持っているけれども、結局は自分の好きなことにしか夢中になれないものです。アンディやレッド、そしてスティーヴン・キングがそうであったように、私は自分が決めたことは最後まで貫き通したいと思います。

私は自身が渦中にある大学受験の緊張感や焦燥感から決して逃避するのではなく、希望と信念を胸に、この試験に立ち向かう覚悟です。



ラプラスの魔女

(著:東野圭吾/角川文庫)

6年特進Ⅰ／小松原 潤くん(マレーシア出身)

有名な映像プロデューサーだった水城義郎が、旅行先の温泉地で死亡した。地球科学専門の大学教授・青江が調べたところ、火山で発生する硫化水素ガスによる中毒死であり、硫化水素ガスが発生した時にその場所に偶然居合わせたための不運な事故死と処理された。

数日後、別の温泉地でも硫化水素ガスによる中毒死で亡くなった男性が発見された。青江はこの温泉地にも調査のために訪れることになったが、これも事故死と判断された。

両方とも不運な事故死と結論づけた青江だったが、どうしても気になることがあった。それは、前回の事故現場で見かけた少女を、今回の事故現場でも見かけたからであった。少女の存在を知り、「これは事故死ではないのかも知れない」と青江は事件の臭いをかぎ取った。

その疑念を晴らすべく、その少女を追いかける青江。やがて青江は、「不思議な力」をその少女から見せられることになる…。

さまざまな人物が絡むサスペンスミステリー。今年、映画化されたので観た人もいるかも知れません。色々な視点から描かれる事件、それぞれの人物やその思惑がどう絡んで、どう繋がるのかがとても気になって、僕は高まる緊迫感を引きずりながら一気に読破しました。

狂気とスリルに満ちた力作で読み応えのたっぷりの本です。是非、手にとって読んでみてください。



未来

(著:湊かなえ/双葉社)

4年C組／中田 寧々さん(石川県出身)

この本は、主人公「章子」のもとに、未来の自分から手紙が届くところから始まります。

章子は、複雑な家庭で育ちます。父親は章子が10歳の時に他界して、母親は精神を病んでいます。章子は、父の代わりをして、母を守ろうとしますが、世間は章子を苦しめます。そんな章子の未来は? というあらすじです。

私はこの本を読んで、家族の絆や、社会の厳しさを改めて知りました。この本には、優しさ、辛さが込められており、読後は温かい気持ちになれます。

読んで欲しい1冊です。



猫がいればそれだけで

(監修:今泉忠明 編集:猫のこと研究倶楽部/知的生きかた文庫)

5年特進Ⅰ／ナウン・ブラウパンさん(タイ出身)

私は猫が大好きです。どうしてもないくらい好きです。タイの実家でも猫を飼っています。

日本でも、猫の人気は上昇傾向だそうです。「ペットフード協会」のペット数調査では、2017年に犬892万匹に対し、猫は953万匹。初めて犬を上回ったそうです。

猫は人に媚びることなく、マイペースで気分屋さん。甘えてきたかと思えば、次の瞬間はプイと立ち去る…それらの所作に翻弄されるのですが、側にいるだけで幸せな気分してくれます。

しかし、私は猫の扱い方がとても下手なのです。猫と仲良くなりたくて、いろいろ世話をしますが、何をしてもあまり喜んでくれないし、食事の時以外は遊んでくれず、少し悩んでいました。

この本は「猫の思考と行動」「病氣と終末ケア」など9つのテーマで構成され、しっぽを見れば気分がわかる? 死ぬとき姿を消そうとするのはどうして? など猫の扱い方や猫の生態が分かりやすく書かれています。特に私は「ごろごろ」(のどをごろごろと鳴らす)の意味とか、テレビシーが通じるかも知れないなどの項目を興味深く読みました。

この本で勉強して、やっとうちの愛しい猫と遊べるようになりました。猫は非常に不思議な生き物ですから、努力をしなければ猫に好かれません。

「猫は好きだけど、なぜか猫に好かれていない人」には、是非この本を読んでみて欲しいです。



ゲーム界 最前線に立つ浜田洋平先輩(2001年卒/23期生)



高知新聞/11月8日付朝刊

生徒編

みずの ふ き
水野富貴さん
(6年特進I／高知県出身)



辛い時こそ
ちよつとずつ

中学1年以来の明德生活も残りわずか。入学当初、一緒に入学した友達とは喧嘩ばかり。1年生が押し付けられる仕事は実に多く、クラブと寮の先輩や先生からは毎日叱られ通し。休み時間も気が抜けない。

入学2ヶ月後、もう我慢できないと公衆電話に突進し、母に連絡。涙ポロポロで「家に帰りたい。退学したい」。しかし、母は冷静で、その返答は「もうちょっと頑張ってみたら」と繰り返すばかり。

それ以後の1ヶ月間、母に毎日、寮に電話をかけてもらい、その度に「もう嫌だ、何でやめさせてくれないの」と泣きじゃくる私。でも、母は決まって最後に「そうやね…でも、もうちょっと頑張ってみい」と。

私はこんなに頑張っているのに…全く無理解な母を嫌いになりました。でも、本当は母の声を聞いてただけで心は安らぎ、もうちょっとだけ頑張ってみるか！と心の中に小さな灯がともった感じにさせられていったのです。

剣道部キャプテン、寮長、生徒会長。私は3つの肩書を背負い、それぞれの立場で先生から怒鳴られることもしばしば。正直、『理不尽だな』と思うこともあるのですが、『自分への期待の裏返しなんだ』と気持ちを鎮め、重圧に耐えました。だから、これからどんな苦労や困難に見舞われても、きっと私はへっちゃら。この図太さも明德で学びました。

人生100年時代。まだ五分の一も生きていないのですが、期待と不安のこれからを明德生活で培った「辛い時こそ ちよつとずつ」「いつもの頑張り」に ちよつとプラス」の精神で乗り切っていきたいと思います。

第29回

リレーエッセー

♪人生楽ありや 苦もあるさ 涙のあとには 虹も出る…
私が大好きなテレビ人気長寿番組「水戸黄門」の主題歌です。そんな波風のある人生の中で、「決断」のあり方を真剣に考える時があります。

例えば、目の前にある事柄が、正しいのか誤っているのかの善悪の判断。それをどうしていくのかの「決断」。判断基準は人それぞれで、これまでの経験や培ってきた価値観、そして哲学によるところが大きいのは確かです。

では今、この「決断」はどうかと、考えることがあります。世界を覆う喫緊の課題、「難民」「移民」問題です。受け入れに寛容なドイツのメルケル首相は受け入れを決断したものの、地方選挙の政権与党大敗北の責任をとって退陣を余儀なくされています。ドイツの難民流入は実に100万人を突破しているそうです。

また、主にメキシコ人の移民阻止へ動く米国のトランプ大統領は、堅固な保守層の支持を背景に意気軒高です。世界あちこちで「保護主義」が台頭する現状をどう捉えればいいのか…難民キャンプ地で目の輝きを失った子供や女性の姿をテレビで見る度に、私は心が締め付けられる思いです。

冒頭のテーマソングにあるように、私たちは最後には大空に「虹」を見たものです。グローバル社会のヒューマニズムと現実を直視する国民感情。自分がもし首相や大統領であれば、この相克をどう乗り越え、何をどう決断するだろうか。自問自答が続いています。

うちむら えいじろう
内村英二郎先生
(社会教諭／神奈川県出身)



「判断」と
「決断」

先生編

第2回

たんぽぽ教室 紙上参観

授業 理科

対象 中学1・2・3年

担当 尾留川琢也先生



「理科を学ぶ＝生きていることを実感すること」。少し大げさに生徒に伝えています。

理科は難しいと感じている生徒が多いように感じますが、日々の生活それ自体が理科であり、一つひとつ見つめてみると、いたるところに現象が転がっています。見落としているだけなんです。落としものを拾いに行きましょう。

見落としていると言えば…どんなに能力に長けている人でも必ず見落としている部分が存在するのです。例えば、『マリオット盲点』と呼ばれるものです。

こんな実験があります。左目を瞑って＋を見ながら顔を＋に近づけてみてください。

何かが起こります。

どうですか。＋から15cmほどのところまで近づくと、●が消えませんか？ これが盲点です。

目の構造は、網膜が光を受け取ることで物体を認知します。しかし、視神経が束になり集まっているところでは、光を受け取る組織がありません。そのため、物体を認知することができないのです。

この盲点を補うのが、もう片方の目です。両目がそろって、お互いが盲点を感じさせないようにしている訳ですね。助け合って素晴らしい!!

一人で、何でもこなすことができる人はいないはず。

必ず周りで支えてくれている人がいる。皆さんも理科の勉強を通じて、いたるところに助け合いが存在していることに気付いていけると、生きることがより楽しくなるかも知れませんね!



授業 英語・コミュニケーション英語・英語表現

対象 国際コース中2/4年中国語/5年中国語/6年特進II

担当 小林美貴 先生



「英語を話せたらカッコいい」「洋楽を聴けるようになれば」「洋画を字幕なしで観ることができた」。誰でも一度は思ったことがあるのではないだろうか。しかし、ほとんどの人は「どうせ無理、自分にはできない」と諦めてしまうかも知れません。諦めずに英語を勉強してもらうには、どうしたら良いのか。常に考えています。

英語の授業は、基本的に教科書本文の内容理解や文法を教えているのですが、特に英語の好き嫌いが分かれてしまう中学の授業では「英語、楽しいかも!」と思ってもらうために、いろいろ工夫をしています。

まず外国に興味を持ってもらうために、授業の始めに海外の様々な写真を見せて『この国はどこだ?』クイズをする時があります。例えば正解がシンガポールの場合、中国・マレー・ヨーロッパの伝統をミックスさせた独特のプラナカン文化を色濃く反映した「カトン地区」の風景写真などマニアックな所やモノを見せ、生徒の反応が鈍い時はマリーナベイサンズのホテルやマラーイオンの写真を見せて、正解を探らせるといった具合です。このクイズを通して「世界にはこんなきれいな場所やおもしろいものがある」と外国に興味を持つことから、英語を勉強する意欲に繋がると考えています。

最近、実際にLast Christmas (Wham) など洋楽を歌う練習もしています。学習している文法や単語がでけると、生徒は「これ分かる!」と思えますし、英語のリズムなどをつかむのにも最適です。「カラオケで歌える!」と喜んでいた生徒もいました。

人は「楽しい」と思えることしか続けられません。だからこそ、英語は楽しい!おもしろい!と思えるような授業をこれからも考え、英語の楽しさを伝えていきたいと思っています。



さてさて この国
どこだ?

サッカー部保護者・OBがバス寄贈

高校サッカー部保護者会とOB会がクラブ専用バスを寄贈することになり12月13日、本校・研修会館で寄贈式と安全祈願祭が執り行われました。クラブ専用バスは、高校野球部（55人乗り）に次いで2台目となります。

「遠征などでいつでも自由に使える専用バスを」と、保護者会の鎌倉美香会長や大賀道明さんらが中心となり、松田博任さんや森澤のり子さんらも世話役として寄付を呼びかけ、OB会も全面協力の態勢が整い、購入が実現しました。

高校サッカー部専用バスは日野自動車製「セレガ」の42人乗り新車で約3,200万円。早速、冬期休暇中の対外試合などに利用されます。

贈呈式で、小松晃監督は「保護者会やOB会の皆さんに心からお礼を申し上げます。この専用バスを大いに活用して、皆さんの期待に応えられるよう、チームの実力向上に有効に活用していきます」と感謝の言葉を述べました。



村上純一先生



朝日新聞／8月2日付朝刊



村上先生が「広瀬金蔵」出版

竜キャンパスで古典や国語総合を指導している村上純一先生が「広瀬金蔵 絵金の真実」（飛鳥出版）を出版、高知新聞で紹介されました。

狩野派の画風を学び、土佐藩の御用絵師となった広瀬金蔵（『絵金』）その人と作品を村上先生独自に追究した本で、さまざまな資料や文献をもとに新たな「絵金像」を描いた力作です。

村上先生は「絵金は大変な力量を持つ天才画家。興味があれば是非、手に取って欲しいです」と話しています。

また、日本語の土橋洋平先生の投書が10月11日付の高知新聞投書欄に掲載されました。

土橋先生は、7月に西日本を中心とした集中豪雨で大水害が発生した愛媛県へ災害ボランティアとして出かけ、その時に得た教訓として「自治体が大量の災害ゴミを収集する際は、分別することが重要」と提言し、関係者から注目を集めました。



高知新聞／10月11日付朝刊



土橋洋平先生

編集後記

♥このところ、「平成最後の〇〇」という言葉をよく耳にします。総理大臣になる前の故小淵恵三官房長官が新しい年号の「平成」と書かれた紙を掲げた改元発表の記者会見シーンは、今でも頭に鮮明に残っています。その時は、まさか自分が3つの年号を生きるとは思っていませんでした。次の年号が決まった時にはどんな気持ちになるのか、今から少しドキドキしています。（HIROKO）

♣明德生にエール（8・9面）の森谷圭介さんは、バントック先生が英国に帰郷した際に偶然出会い、彼に投稿を勧めてくれました。13面の浜田洋平さんはゲームクリエイターとしてゲーム業界の最前線で活躍中。地球を舞台に、卒業生が様々な分野で躍動する姿を目にすると誇らしい気分になります。明德義塾には優秀な留学生も多く在籍していますので、今後が益々楽しみです。今号「たんぽぽ」を手にして下さった皆さん、新年のご多幸を祈念致します。（編集長）

